

講義ユニット名	組織学		所属科目名	人体構造学Ⅱ
講義ユニット 責任者	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学	
授業方法	講義 顕微鏡実習あるいはバーチャルスライドを用いた実習			
概 要	医師となるために必要な解剖学的知識の習得にむけて、人体を構成する各器官（中枢神経系を除く）の細胞・組織構築について理解することを主な目標とする。			
講義ユニットの 到達目標	細胞の観察法を説明できる。 細胞の全体像を図示できる。 核とリボソームの構造と機能を説明できる。 小胞体、ゴルジ体、リソソーム等の細胞内膜系の構造と機能を説明できる。 ミトコンドリア、葉緑体の構造と機能を説明できる。 細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。 細胞膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。 上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。 支持組織を構成する細胞と細胞間質（線維成分と基質）を説明できる。 血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。 神経組織の微細構造を説明できる。 筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。 組織の再生の機序を説明できる。 骨髄の構造を説明できる。 脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる。 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 心臓の構造と分布する血管・神経、冠動脈の特長とその分布域を説明できる。 心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。 食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。 歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。 精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	講義・実習については出席状況把握システムもしくはTeamsやFormsでの出席履歴・オンライン教材の視聴履歴・小テスト・レポートなどにより出席をとる。			
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）			
評価法	本試験における合格最低基準は60点とする。最終的な評価は試験の結果に加えて実習レポートや講義・実習への参加・小テストなどにより総合的な評価を行う。			
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。			
履修上の注意 アドバイス	講義と実習を対にして進めるので、知識を整理して実習にのぞむこと。			
推奨参考書	人体の正常構造と機能（縮刷版、日本医事新報） 最新カラー組織学（西村書店）ウィーター図説で学ぶ機能組織学（エルゼビア・ジャパン）			